

化学工学会 第 50 回秋季大会
部会横断型シンポジウム＜電池・エネルギー変換・貯蔵技術の新展開ーナノからマクロ、
材料からシステムまでー(口頭発表部門)＞ 報告書

オーガナイザー
辻口 拓也(金沢大学)
中垣 隆雄(早稲田大学)
田巻 孝敬(東京工業大学)(文責)
石飛 宏和(群馬大学)
齊藤 丈靖(大阪府立大学)
中尾 公人(東洋エンジニアリング(株))

2018 年 9 月 18～20 日に鹿児島大学で開催された化学工学会第 50 回秋季大会にて本シンポジウムが開催され、合計 27 件の講演発表が行われた。詳細は下記の通りである。

日時	9 月 18 日 10:00～14:40 9 件(招待講演 1 件を含む) 9 月 19 日 9:00～14:00 8 件(招待講演 1 件を含む) 9 月 20 日 9:00～14:20 10 件(招待講演 1 件を含む)
会場	鹿児島大学郡元キャンパス
聴講者数	73 名
招待講演	『再生可能エネルギーを利用する水素エネルギーシステムの開発』 吉野 正人氏(株式会社東芝) 『全固体電池における界面の重要性』 高田 和典氏(国立研究開発法人物質・材料研究機構) 『固体高分子形燃料電池の最新解析技術:電極触媒、触媒層の構造と特性』 今井 英人氏(株式会社日産アーク)

その他:本部会横断シンポジウムは、エネルギー部会、反応工学部会、材料・界面部会の共催として行われた。また、2 日目には『エネルギー変換・貯蔵技術への化学工学の貢献』と題した総合討論が行われた。

以上